

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月7日

【評価実施概要】

事業所番号	3790400034
法人名	医療法人社団 大杉脳神経外科
事業所名	グループホームまおの里
所在地	香川県善通寺市大麻町2080番地1 (電話)0877-43-6061

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年11月7日	評価決定日	平成21年1月7日

【情報提供票より】(20年10月22日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和(平成) 19年 12月 5日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9人
職員数	10人 常勤 9人, 非常勤 1人, 常勤換算 6.4人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての1階部分
------	-------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000円	その他の経費(月額)	15,000円	
敷金	有()円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	100円
	または1日当たり 1,600円			

(4)利用者の概要(10月22日現在)

利用者人数	7名	男性	1名	女性	6名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.4歳	最低	76歳	最高	91歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	大杉脳外科 氏家歯科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道沿いに法人内の病院、デイサービスが隣接し、近隣には産直市などもあり人が多く行き交う場所にホームはある。反対側には田んぼが広がっており、近くには電車の線路もあり、景色もよく便利のよい場所に建てられている。ホームは、近くに畑もあり、近隣の方の協力もあって野菜が育ち、利用者と地域の方がふれあえる場所になっている。ホームは病院が力をいれている脳リハビリをおこない、認知症のかたのリハビリを行っている。ほかにも音楽療法などを取り入れ、潤いがあり残存機能の維持のための取り組みを積極的に行っている。ホームは開設されてまだ日が浅いが、利用者支援のためのさまざまな工夫をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回が初めての外部評価である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員で取り組み自己評価をおこなった。朝のミーティングの中で行い、理解ができていく部分については、他のスタッフに見てもらいながら、理解を深めることができた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は開設以降3回開催している。地域の方を始め、市の担当者、地域包括支援センター職員、本人、家族も含めた会議となっている。会議の内容は、現状報告や事業についてのお知らせなどをし、それぞれの立場から貴重な意見がいただけている。消防訓練なども地域の方にアドバイスを受けて実施をした。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族は、土・日曜日、祝日などよく面会に訪れている。遠方の方にも電話連絡を密にしている。面会に来られた時には、利用者から要望やご意見を聴いたり、利用者の状態を伝えている。また、話し合いを繰り返し行い、よりよい支援につなげるよう工夫している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>庭先に出て過ごしたり、近くまで散歩をしたり、畑の世話をするなかで地域の方と触れ合う機会を持つようにしている。行事への声かけや地域の行事への参加は行うことができているが、日常的な交流はまだ少ない。今後はホームが地域の方々のふれあう場所になることが期待される。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	笑顔を引き出し自立への意欲を起すサービスの提供、なじみ、親しみのあるコミュニケーション空間、命と人権、そして意思の尊重の基本理念が法人にはある。	○	簡単で分かりやすく覚えやすく、日々の支援のなかで理念が統合され実践につながることを望まれる。
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関やスタッフルームに理念を掲示している。朝礼では職員が復唱をしている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の公民館まつりへの参加、獅子舞などの慰問など交流はある。畑の草刈の協力や散歩などで出会った時には挨拶をしている。	○	自治会に入っているものの、老人会や子どもとの交流はまだない。今後地域の活動団体との交流を広げたり、ホームに立ち寄っていただけるような地域との関わりが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフも参加して皆で自己評価をおこなった。日々繰り返されるミーティングのなかで評価を活かした検討を行うことで理解を深めることができた。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設時より3回開催している。利用者、家族、地域住民、市の高齢福祉課、地域包括、事業所が参加してホームでの活動の現状報告と活動報告を行っている。その中で意見が行事の際に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	判らないことについては随時連絡をして、話をうかがうようにしている。市の連絡協議会にも2か月に1回参加をし質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	土・日曜日、夕方にはよく来てくれる。遠方には電話連絡で対応している。困った時などはすぐに来てくれる。報告は面会時のみならず、行事の写真などが入ったより分かりやすい便りなども活用することが「望まれる。」。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や要望などを聴くようにしている。こちらが対応に困ることなども家族に相談して、利用者にとってよりよいものになるよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者は、異動にも特に影響は見られなかったが、家族から職員へ確認があったことがある。今後は便りや面会時にお知らせをするなど家族への配慮を望まれる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症の研修は開所してからの期間も短く、全員が十分受講できていない。脳リハビリや介護福祉士会への参加をしたり、研修へ参加したスタッフの復命書を回覧している。また、スタッフへの参加への声かけや夜間の研修会には参加してもらうよう情報提供はしている。事業所内では、感染症対策の研修を実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	専門職団体との交流はあるが、ホーム同士の交流までには至っていない。	○	地域の事業所との交流は、利用者の外出の機会になるだけでなく、職員の交流や支援の方法などサービスの質を高めていく機会にもなる。今後は管理者、職員が同業者と交流する機会が持てるよう、運営者の取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所を希望する本人や家族にホームを見学し決めている。希望があれば、ホームに泊まってもらう体験の取り組みも行っている。入所してからは、1日1回電話し馴染めるような工夫もしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は、毎日の食事の支度をしたり、花の名前など色々なことを教えてくれる。会話のなかで核心をつく表現をすることもあり、本人から学ぶことは多くある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活動作や健康チェックなど医療的な部分の把握は、十分に行うことができている。	○	利用者の気持ちを聴きだすことの重要性を職員は認識しているが、まだまだ難しいと思われるようだが、日常の生活場面で言葉・表情などから引き出せるよう工夫、向上が望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	健康面の管理は十分にしているが、同じ内容で記入するものが多く見られる。ケアプランは担当、計画作成責任者が中心となって作っている。日々の支援の中での気づきを記載する日誌と、面会や行事、連絡などを記載する事業日誌、健康チェックはそれぞれ別々に記入されている。そのため記録量が多く煩雑で、ケアプランに活かし難い現状にある。	○	それぞれの記録を連動したものにし、ケアプランが見やすくなるとケアプランに沿った支援が行いやすく、日々の支援のなかで新たな課題にも気づきやすいと思われる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年を目途にケアプランの見直しをしている。モニタリングは1か月に1回行っている。日常生活動作の著しい低下が見られた時などは、その都度プランの立て直しをしている。	○	利用者の生活を細やかな視点で見ている、思いや気持ちを十分に聞き取ったプランとすることが期待できる。また、ケアプランの見直しを行い、サービス内容が変わる度に家族から同意書を得、署名を戴くことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	健康管理は、協力医療機関の院長、リハビリ担当医師のアドバイスを受けて支援をしている。行事は、まおの里の小規模多機能を利用される方々と一緒に出かけたり、ベンチを出して過ごすことも多い。音楽療法なども積極的に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の病院に受診している。利用者の状態によっては、ほかの診療機関を利用することもあり、柔軟に対応している。歯科医は希望があれば、日曜日に往診がある。通院は家族や職員によって対応している。手薄になるときは、法人内からの協力も得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時の契約書のなかで、説明は行っている。普段の健康管理は十分にしており、できるだけここで過していきたいと考え。また、その状態になった都度、家族と相談しながら決めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の思いを尊重しながら、支援をしている。言葉遣いもよく、とっさの際にも利用者の思いに沿った対応をしており、利用者も穏やかな生活をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の準備などもゆっくと時間をかけて支援している。食事後もその方に合った過ごし方であり、職員は、利用者をそっと見守り支えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご飯とお汁はホームで作るようにしている。下膳、皿洗いは一緒にしている。食事は職員が必ず一人は利用者と一緒に食べて話題を広げたり、好みの把握をしている。箸、茶碗、コップなどは個人の物を準備している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月曜、木曜の週2日入浴を行っている。入浴を嫌がる人もいるが、清拭にしたり、曜日を交えたりして対応している。夜入りたいという希望はないので昼間の入浴のみとなっている。	○	入浴日を設けて一人ひとりがゆっくと入浴できるよう支援していく工夫が期待される。
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩は国道付近まで毎日行っている。脳トレーニングや音楽療法などでその人に合った支援をしている。今後は日々の支援の中で生活歴に合わせた役割を見出していくことを考えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	金銭感覚が少なくなってきた利用者の方にも1回300円～500円程度を持っていただき外出などを実施している。普段の買物にはあまり出かけなくなっているが、利用者の健康状態により日常的な外出ができるよう心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	できる限り鍵はかけたくはないが、近くに線路や主要道路などもあり、職員がいないと自由に出入りできないようにしている。職員が揃っている時には、できるかぎり鍵をかけないケアをしている。	○	鍵をかけないケアを実践することができるよう、職員が常にホーム全体を見渡せる場所にいるなどの工夫が望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練のマニュアルは整備している。今回初めて、職員と利用者とともに駐車場での避難訓練を行った。消防署の協力はなかったが、器具メーカーに説明を受けた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が立てたメニューに沿って、ご飯とお汁のみホームで作っている。畑で取れた野菜や買物に行き買って来た物を使ってメニューが賑わうこともある。毎日食事摂取や水分摂取量に注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビングで窓も多く明るい造りになっている。道路側の入り口からはすぐ散歩に出ることができたり、家族や外部の方との交流もできるようになっている。仲の良い方同士がソファに座って談笑するスペースもある。行事の写真やカレンダーなどがバランスよく配置されると尚一層心地良い空間になると思われる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望によっては、ベッドを使用せず、カーペットなどで対応している。転倒や認知症による問題行動を起こさないように荷物は最小限にしており、必要なものは押し入れに入れている。	○	脳トレーニングをおこない、作品も作られている。その作品や行事の作品を居室に飾ることで、暖かさや優しさが感じられる居室になるのではないかと思われる。